

## 決済サービスへ地平を広げていくバイクタクシー Go-Jek

割石 俊介

### <決済サービスへの進出へ向け買収を開始>

ハッピーメール 2017年5月号で取り上げたことのある、インドネシアのオンラインバイクタクシーサービスのリーディングプレーヤーである Go-Jek。バイクタクシーのみならず、フードデリバリー、クリーニング、買い物代行、映画チケット販売など、様々な分野にサービス範囲を広げており、業容は拡大の一途です。週あたり登録ドライバーは90万人、週あたりユーザーは1,500万人、1ヶ月のトランザクション処理（決済処理）件数は1億以上とされています。

その Go-Jek が最近、インドネシアのフィンテックスタートアップ3社を買収したことが話題になっています。報道によると、Midtrans、Kartuku、Mapan の3社で買収額は未公表とのこと。既に Go-Jek は Go-Pay という決済の仕組みを持っており、Go-Pay にチャージしておけば各種サービスの利用をキャッシュレスで行うことができますが、これら企業を買収により決済機能・決済サービスを一層強化し、Go-Jek が直接提供するサービス以外にも決済サービス提供範囲を広げる狙いだと思われます。

既に Go-Bills というサービスを開始しており、電気代や社会保険料の支払いを行うことができるようになっています。

インドネシアではクレジットカード保有者は人口のわずか4%と言われており、銀行口座保有率すら50%未満。他方でスマホ普及率は5割を超え、ネット利用者人口は2018年に1億2,300万人と日本を越える見通しとされています。

このような環境及びトレンドの中、Go-Jek の決済サービス強化の動きは注目されます。

### <中国に見る金融の未来とインドネシアへの示唆>

筆者は先日、中国の深センを訪問する機会がありましたが、最近、頻繁に新聞などで報道されているように、中国では今殆ど現金を持たずにスマホ決済で生活できてしまう状況になっています。買い物、レストラン、ファーストフード、レンタル自転車・・・あらゆる決済がスマホをかざすことで行われています。私自身は目撃しませんでした。スマホを持っている物乞いすらいるそうです。誰も現金を持っていないため、スマホがないと「お金」を受け取れないためです。

インドネシアが一足飛びにそうした状況にはなるとは思えませんが、5~10年ぐらいのスパンで見れば Go-Jek やそのライバルの Grab のような金融業界以外のプレーヤーが、スマホや関連サービスの広がりにあいまって金融サービスの世界を変えていき、風景が激変している可能性もあるかと思えます。



ジャカルタ市内 Go-Jek バイクタクシー  
(編集者撮影)